

苫小牧市立中央図書館の自己評価並びに自己評価説明及び点検を踏まえ実施した図書館協議会委員による点検及び評価は以下のとおりです。

平成 29 年 7 月 31 日

苫小牧市図書館協議会 会長 種田 直章

<総評>

平成 28 年度の苫小牧市立中央図書館の運営について、各実施事業については前進や工夫が窺える取組みが多く見受けられました。特に、学校支援事業について苫教研図書館部会と協力して事業の見直しや充実を図り利用増に繋げた点や、「サピエ」を導入し視覚障がい者の方へのサービスを充実させた点など、読書活動を支援する拠点としての役割を十分に果たしているものと考えます。また、社会教育の視点を取り入れ市民ボランティアを養成していることや、各方面の外部団体と連携を深め事業を実施していることから、市民のための活動環境づくりに努め「市民との協働」が実現できていると考えます。利用者アンケートの意見や満足度の結果からも、市民ニーズを捉えた運営がなされているものと感じます。

中央図書館ではデジタル情報の提供やビジネス情報支援をはじめ、郷土に関する知識を深める事業など、市民に役立つ数多くの取組みを行っていますが、さらに活用されるよう周知の工夫等を行い、図書館サービスの向上に繋げていただきたいと考えます。また、児童をはじめ市民へのさらなる読書推進の取組みが必要と考えられることから、読書活動を促す環境の整備等について検討いただきたいと考えます。

総評並びに以下に記載する各委員の意見のまとめを参考に、さらなる図書館運営の充実に努めてください。

「基本目標Ⅰ 情報と知識を集積した知の情報拠点としての図書館」について

【評価する点】

- ・アンケートや意見要望に対して、丁寧に図書館の考え方を伝えている点や、市民ニーズに即した幅広い対応が良いと感ずる。
- ・多様なサービスがよく見える形で図書館運営がなされており、前進、工夫がうかがえる。
- ・指定管理者同士の連携は、異業種交流により新たなニーズの発見に繋がると考えられるため、評価できる。
- ・電子図書館が充実し良かったと思う。iPad利用講座については、行政のデジタル化の進行による情報格差への対応という意味もあるので拡充を望む。インターネット予約が便利で使いやすい。
- ・ほとんどの事業に前年比を上回る利用実績があり、指標目標もほぼ達成しており評価に値する。貸出数は減となっているが、減少の原因がはっきりしているので回復が見込めると思う。
- ・蔵書冊数はH30年度目標値を既に達成しており、今後目標値を守りつつ蔵書の入替を進めてもらえるとさらに良い。

【改善を要する点】

- ・サービスが多岐にわたっており、職員の負荷が大きいのではと懸念する。達成率や実績数などの数字も大事だが、利用者の声に耳を傾け、運営に反映させながら公共図書館としての信念を持って運営していただきたい。
- ・電子図書館や音楽コンテンツ配信サービスなどは周知が不足しているのではないか。全くデジタルに触れたことのない人への働きかけも必要と思う。また、HPの各コンテンツの動作環境の記述が古い箇所があったのでこういった点にも気を配って欲しい。
- ・人気図書は複数冊購入し、予約者の待ち期間を減らしてはどうか。
- ・豊川コーナー休室の影響で今年度の貸出点数の実績が基準値よりも減っているため、協議会委員への今年度半ばでの貸出点数状況報告を要望する。

「基本目標Ⅱ 読書活動推進、支援拠点としての図書館」について

【評価する点】

- ・小学校の並行読書の取組みには図書館との連携が不可欠であるが、事務的なやり取りだけでなく助言などもいただき学校を支えてもらっていると感ずる。
- ・ブックちゃん事業は達成率はまだ低いが、内容見直しにより昨年から大幅増となったことは評価したい。今後も苦教研図書館部会との協力を進め、読書活動の支援拠点としての図書館機能を強化して欲しい。
- ・読書活動推進のため、多くの取組みを実践しており、読書活動を支援する拠点としての役割を十分果たしていると考ええる。

【改善を要する点】

- ・全国学力・学習状況調査の結果から、本市児童・生徒のスマホ使用による学習・読書時間が十分に確保できない実態が明らかになっている。ヤングアダルト世代の個人貸出実績からも、直接的な働きかけや、情報発信について取り組む必要があるのではないかと。今後、乳幼児を含めた若い世代に対しさらなる読書活動を促す環境整備を望む。
- ・ブックちゃんについて、利用校の活用事例をPRするなどして稼働率の上昇に努めて欲しい。
- ・アウトリーチサービスについて、施設の内容は充実しているようだが周知にも工夫が必要と思う。
- ・件数の増加よりも、内容の充実に関心をもち、力を入れた計画策定や、事業内容の改善に期待する。

「基本目標Ⅲ 市民が利用しやすく、役立つ図書館」について

【評価する点】

- ・幅広い年齢層及び障害がある方へのサービスに努めている点。特に今年度は「サピエ」を導入し視覚障がい者に提供する資料数が大幅に増え、視覚障害がある方々へのサービスを充実したことが充分評価できる。
- ・市民ニーズに即したサービスにより利用者満足度が高い。指標の達成とはなっていないが努力しており評価できる。
- ・アンケートの配布枚数に対しての有効回答数の割合が高く、利用者と図書館の距離の近さを実感した。また、アンケートには利用者が取組みに対して評価している回答が多く見られた。
- ・職員が明るく、接客態度も良いので評価したい。また、サービスがマニュアル化され、職員による対応の良し悪しの差がほぼ無くなったと感ずる。
- ・ビジネス図書コーナーが興味深い。役立つ資料であることを周知して欲しい。

【改善を要する点】

- ・「開館日・開館時間の拡大など利用要件の見直し」についてはもう充分ではないか。利用者要望は多岐に渡っているが対応にも限界があることから、現在の開館範囲の中で内容に関わるサービス向上を図るべきと考える。
- ・ユーザビリティ向上事業の前年比実績が低い。
- ・郷土資料室の周知のため、利用者が興味を持てるような工夫を期待する。
- ・新設の「ビジネス図書コーナー」がすぐに見つけられなかったとの声を聞いた。新規来館者等にもわかるよう、入口付近に目玉のコーナー等が一目でわかるような工夫があると良いのではないか。
- ・アンケート意見に対する回答が論理的でない箇所があり留意されたい。
- ・ブックシャワーについて、使い方の説明の記載はあるが使用のメリットの標記もあると高齢者にも使いやすいと思う。
- ・大活字本や録音図書はたくさん揃っているのに利用頻度が少ないのはもったいない。障がいの有無に関係なく利用できるものは一般向けに周知しては。
- ・接客が丁寧すぎると感じる時がある。「マニュアル化」が「マニュアル通り」にならないよう配慮されたい。
- ・レファレンス件数が減となっていることから、今までと異なる形でレファレンスの周知を行う必要があると感ずる。

「基本目標Ⅳ 郷土の歴史と特性を大切にし、豊かな市民文化を創造する図書館」について

【評価する点】

- ・地域デジタル情報配信事業である「苦小牧はじめて物語」は興味深い内容であり、継続して欲しい。デジタルの利用が進んでいることは良い点と思う。
- ・美術博物館との連携による郷土講座も良かった。
- ・郷土の歴史を伝える役割を持つ図書館としてはレファレンス件数の減は悩ましいが、郷土に関するイベントを複数開催するなど改善に向けての努力を感じる。
- ・郷土資料についてはインターネット等での情報が得られにくいことから、図書館において継続的収集等の事業に取り組んでいることは大変意義がある。
- ・郷土クイズは楽しく郷土について触れ合える取組みと思う。郷土資料室の周知、誘導の方法としても良い取組みと感じた。

【改善を要する点】

- ・八木義徳を輩出した室蘭市は、人口が著しく減少したとはいえ文学館を持つなど室蘭市独特の文化を有している。苦小牧の歴史や文化を発信したり、学習の機会を今後も大事にし苦小牧をPRして欲しい。
- ・郷土レファレンス件数の減少から、レファレンスサービスの存在自体の周知が必要ではないかと感じる。
- ・郷土資料室のさらなるアピールを。利用者が少ないのは残念。

「基本目標Ⅴ 人と本、人と人との出会いを広げ、ゆとりとぬくもりが感じられる図書館」について

【評価する点】

- ・社会教育の視点を取り入れ、市民ボランティアを養成しているのは大変良いと思う。
- ・講座等の参加者数及びボランティア数がともに大幅増となっている。また、各方面の外部団体と連携を深め「市民との協働」が実現できており、市民のために活動してもらえる環境づくりに努めているのは評価できる。
- ・修理ボランティアが学校図書館ボランティア研修で講師となった取組みは、複数団体の協力体制の道ができたことについて評価したい。
- ・学校図書館の活性化とそれによる児童・生徒の読書活動の広がり・深まりにも大いに貢献してもらった。また、小学校は学校司書の配置や学校図書館ボランティアの活動が活発だが、中学校はかなり遅れているため、今後ハード・ソフト面の改善を進めるにあたり図書館に助言等の協力を願う。
- ・多様な講座が多数開催され、その都度参加者のにぎわいを感じる。図書館が市民の楽しみの場の一つになっていると感じる。また、各読み聞かせ団体と協力しての読み聞かせイベントや、有名絵本作家による講演会などは図書館がなければ実現しなかった。いつも楽しく、心が豊かになるような企画を展開していることに、市民の一人として礼を申し上げたい。
- ・職員のあいさつの良さがアンケートでも見られ、接遇に対する努力を感じる。ふらっと行きたくなる図書館となっており、良い。

【改善を要する点】

- ・リラックススペースを知らない人が多いため、場所や利用案内などの周知するべき。
- ・講座の告知について、他施設へのポスター掲示などの案内を積極的に行い、図書館利用者以外にも周知して欲しい。
- ・誕生日に図書館に行くと、自分の生まれた日の新聞をコピーしてもらえるなどの面白いイベントを検討するなどし、利用者増を図って欲しい。
- ・市民協働はイベントの共催だけではないと考えるため、市民の読書習慣の推進を図るための活動にも取り組んでいただきたい。